

報道関係各位

2026.04  
福田美術館



## 企画展「幸せになりたい！—祈りの絵画—」

「仏画」や「吉祥画」に込められた「祈り」を紐解く、福田美術館初の企画展

企画展「幸せになりたい！—祈りの絵画—」は、“祈り”をキーワードとした、福田美術館初の「仏画」と「吉祥画」を中心に紹介する企画展です。

人はまだ文字を持たなかった古の時代から、絵に切実な祈りを込めてきました。絵を描き、絵を観ることで、自分自身や身近な人の幸福、あるいは国などの安寧を願ってきたのです。本展では、作品に込められた多様な祈りのかたちに光を当てます。第1章で紹介するのは、仏の姿や物語を描いた「仏画」の世界です。長い歴史を持つ伝統的な画題を、写実性も取り入れつつ新たな感性で表現した近代の画家たちの意欲作を一挙に公開します。第2章では、縁起の良い植物や動物を描いた「吉祥画」の世界を紹介します。いわゆるおめでたい絵画は、古くから私たちの日々の暮らしを彩ってきました。例えば、お正月の床の間に七福神や鶴亀、松竹梅を飾るといった習慣の中からは、生活の平安を祈る気持ちが窺えます。第3章では、祈りを込めて筆をとった日本画壇の巨星・東山魁夷（ひがしやまかい）（1908-1999）の世界を紹介します。「描くことは、誠実に生きたいと願う心の祈り」と語り、真摯に風景と対峙し続けた魁夷の筆致は、観る者の心を浄化するような静謐さに満ちています。

出展作品数は計58点で、菱田春草（ひしだしゅんそう）《白衣観音》、土田麦僊（つちだばくせん）《観音之図》など注目の初公開作品は17点におよびます。

会期：2026年7月18日（土）～2026年9月6日（日）

【主催】福田美術館  
【後援】京都府、京都市、京都市教育委員会  
【会場】福田美術館

【作品点数】

合計：58点  
※うち初公開：17点

※期間中展示替えなし

## 第1章 仏画の世界－ほとけさんたち大集合！－

### 「ほとけさん」の多様な表情に注目！近代の画家たちが追求した仏画の可能性



木村武山《天女散華》 20世紀（部分） 福田美術館蔵



入江波光《聖観音》1946年（部分） 福田美術館蔵



土田麦僊《観音之図》 20世紀（部分） 福田美術館蔵

飛鳥時代に伝来した仏画は、仏像と同様に、寺院や信仰の場での祈りの対象でした。近代には、明治時代初期の廃仏毀釈による大きな危機を経て、岡倉天心（1863-1913）らによる伝統美術の再評価やインドの仏跡調査が進み、仏画の制作が再び盛んになります。画家たちは西洋絵画の陰影や光の表現を取り入れながら、宗教画としての新たな可能性を追求しました。

このような潮流のなか、**精神性を仏画に託したのが京都出身の入江波光（いりえはこう）（1887-1948）**です。昭和時代以降、波光は画壇から距離を置き、名利に走らず、己の内面を見つめながら創作に打ち込みます。墨のにじみが鈍い光を感じさせる独自の仏画を生み出し、晩年には法隆寺金堂壁画の模写にも取り組みました。

本章では、釈迦の生涯を描いた仏伝図にはじまり、様々な仏の姿を描いた波光の秀作を紹介します。《聖観音》は2022年の「開館3周年記念 福美の名品展」以来、4年ぶりの公開となります。さらに、仏画とともに彼の代表作のひとつ《臨海の村》も特別に展示します。高さ約157cm、横幅約171cmの二曲一隻屏風に描かれた漁村の風景には胡粉（ごふん）に墨を混ぜた「具墨」と呼ばれる絵具や、空の部分に薄く刷かれた金泥（きんでい）が独特の風合いをもたらし、仏画にも通ずる繊細で柔らかな色彩が用いられています。

**第1章では、29点中11点もの初公開作品が登場します。** 仏画の世界に初めて触れる人も、近代の画家たちが表現した個性豊かな「ほとけさんたち」の姿に思わず魅了されてしまうのではないのでしょうか。



入江波光《浄天》1920年（部分） 福田美術館蔵

## 第2章 吉祥画の世界－この絵はどこが「おめでたい」？－

### 吉祥画に込められた「祈り」のメッセージを様々なモチーフと表現方法から探る



横山大観《桃》1933年（部分） 福田美術館蔵



橋本雅邦《七福神遊戯図》1854年頃（部分） 福田美術館蔵

吉祥とは、「めでたい兆し」のことです。中国では古来より、長寿や繁栄などの願いを込めて、縁起が良いとされる動植物が絵の題材として用いられてきました。この文化は日本にも伝わり、七福神や松竹梅、あるいは「一富士、二鷹、三茄子」といった吉祥のモチーフが好んで描かれるようになりました。床の間や座敷を彩った吉祥画には、いつの時代も変わらない、人々の幸せを願う気持ちが込められていると言えるでしょう。そのメッセージは、描かれたものの性質や、言葉遊び（掛け言葉）から連想することができます。本章では、なじみ深い一方で意外と知られていない、吉祥画に込められた意味を紹介します。当館初公開作品・根本幽峨の《大黒白鼠初夢図》は、大黒天が縁起の良い「一富士、二鷹、三茄子」の初夢を見ているという、極めて珍しい作品です。普段は背中に背負っている七宝が詰まった袋を枕にすやすやと眠る大黒天の表情は、どこかユーモラスでもあります。横山大観の《桃》には、古来中国では西遊記の孫悟空や楊貴妃も不老不死の果実として欲しがったとされ、日本では古事記や日本書紀の中で魔物を追い払うために使ったことから魔除け・厄除けの意味も持つ桃が、「たらしこみ」という技法で描かれています。たっぷりと水分を含んだ絵具に、濃度が高い絵具を差すことで桃が色づく様子を見事に表現しています。

また、四季を彩る年中行事にも、子供の健やかな成長や平穏な生活への願いを込めたものが多くあります。本章の最後では、失われゆく近代の風俗を描き留めた美人画の巨匠・鏑木清方（かぶらききよかた）（1878-1972）の《十二ヶ月貼交屏風》を初公開します。



根本幽峨《大黒白鼠初夢図》1854年-1858年頃（部分） 福田美術館蔵



菱田春草《白衣観音》  
20世紀（部分） 福田美術館蔵

### 第3章 東山魁夷の世界－描くことは祈ること－

#### 心の奥底に潜む想いや心の平安への祈りが込められた魁夷の名品を紹介

横浜に生まれた東山魁夷（1908-1999）は、大正15年（1926）に東京美術学校（現・東京藝術大学）に入学し、結城素明（1875-1957）に指導を受けました。深く透き通る青を基調とした幻想的な風景画で一世を風靡した、戦後を代表する日本画家です。彼が風景に特別な眼差しを向けるようになったのは、戦後のことでした。凄惨な戦争体験や、肉親との相次ぐ別れにより絶望の淵にいた魁夷は、千葉県鹿野山で夕陽に彩られた山々を見て、心からの安らぎと救いを感じます。



東山魁夷《山峡朝霧》 1977年 福田美術館蔵

この原体験を経て、魁夷は風景を単なる景色ではなく、自分自身の内面を映し出す鏡として捉えるようになりました。その後、心の奥底に潜む想いや心の平安への祈りを込め、制作に励みました。魁夷の作品は平明な描写のうちに、「生」を慈しむ眼差しや精神的な深みを湛えています。本章では、文豪・川端康成（1899-1972）も賞賛した、魁夷自身の流麗な文章とともに、静謐な祈りに満ちた世界を紹介します。



**会期中、小・中学生を対象としたクイズ企画を実施予定です。  
参加者にはもちろんポストカードを進呈します!**

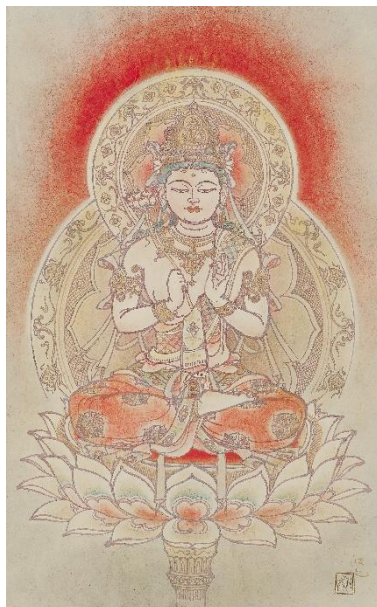
#### プレス用画像

※広報用画像は以下の申請フォームよりダウンロードいただけます。  
<https://tayori.com/f/wannabehappy/>

※トリミング可。その場合キャプションに（部分）と表記



木村武山《天女散華》20世紀 福田美術館蔵



入江波光《聖観音》1946年  
福田美術館蔵



西山翠嶂《悉達發心図》  
1900年 福田美術館蔵

## プレス用画像

※広報用画像は以下の申請フォームよりダウンロードいただけます。  
<https://tayori.com/f/wannabehappy/>

※トリミング可。その場合キャプションに（部分）と表記



横山大観《成道大悟の釈尊》  
1897-1906年頃 福田美術館蔵



土田麦僊《観音之図》  
20世紀 福田美術館蔵



入江波光《浄天》1920年  
福田美術館蔵



村上華岳《雲中散華》1939年  
福田美術館蔵



横山大観《桃》1933年 福田美術館蔵



小茂田青樹《池趣》20世紀 福田美術館蔵



橋本雅邦《七福神遊戯図》1854年頃 福田美術館蔵



根本幽峨《大黒白鼠初夢図》1854年-1858年頃 福田美術館蔵

## プレス用画像

※広報用画像は以下の申請フォームよりダウンロードいただけます。

<https://tayori.com/f/wannabehappy/>

※トリミング可。その場合キャプションに（部分）と表記



菱田春草《白衣観音》  
20世紀 福田美術館蔵



熊斐《松竹梅鶴亀図》左  
18世紀 福田美術館蔵



熊斐《松竹梅鶴亀図》中  
18世紀 福田美術館蔵



熊斐《松竹梅鶴亀図》右  
18世紀 福田美術館蔵



森一鳳《百蝠百鹿図》左  
1870年 福田美術館蔵



森一鳳《百蝠百鹿図》右  
1870年 福田美術館蔵



東山魁夷《山峽朝霧》 1977年 福田美術館蔵

## 展覧会概要

- 企画展名 「幸せになりたい！ー祈りの絵画ー」
- 会 期 2026年7月18日（土）～2026年9月6日（日）  
※期間中展示替えなし
- 開館時間 10:00～17:00（最終入館 16:30）
- 休 館 8月18日（火）
- 主 催 福田美術館
- 後 援 京都府、京都市、京都市教育委員会
- アクセス 〒616-8385 京都府京都市右京区嵯峨天龍寺芒ノ馬場町3-16  
JR山陰本線（嵯峨野線）「嵯峨嵐山駅」下車徒歩12分／阪急嵐山線「嵐山駅」下車徒歩11分／嵐電（京福電鉄）「嵐山駅」下車徒歩4分
- 料 金

一般	高校生	小・中学生	その他
1,500 (1,400) 円	900 (800) 円	500 (400) 円	* 障がい者と介添人1名まで各900（800）円 * 幼児無料 * （ ）内は20名以上の団体料金

< 嵯峨嵐山文華館との両館共通券 >

一般・大学生：2,300円／高校生：1,300円／小中学生：750円

障がい者と介添人1名まで：各1,300円

### プレスリリース／広報用画像に関するお問合せ

福田美術館広報事務局（共同ピーアール内）  
担当：田中真衣、樋口佳代  
TEL：03-6264-2045  
Email：fukudamuseum-pr@kyodo-pr.co.jp

### 一般の方からのお問合せ

福田美術館 TEL：075-863-0606（代表）Email：[info@fukuda-art-museum.jp](mailto:info@fukuda-art-museum.jp)